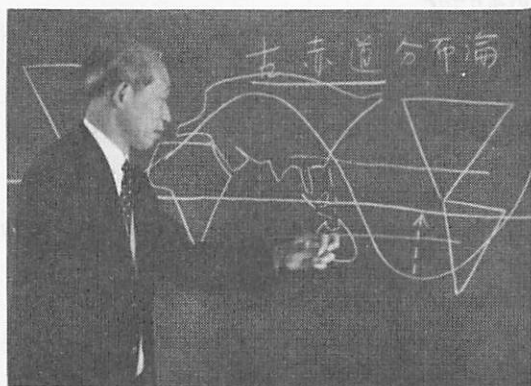


長野県植物研究会創立10周年記念大会



長野県植物研究会創立10周年の記念大会を開こうという話が51年5月第10回総会の時清水会長から提案された。提案はただちに全員一致で創立10周年大会を成功させる決議がなされ、現在活躍中の先生方に特別寄稿をお願いして記念号を出版しよう、県内外の会員に呼びかけて研究発表、講演会を開こうと方針が決定した。

細部については常任幹事一任となった。その後何回かの幹事会が開かれ、経過報告がなされ、報告の中で前川文夫先生の講演の決定、ご依頼した先生方からの特別寄稿のお約束に幹事一同意を強くし、なんとしても成功させたいと意気込んだ。だが研究会は赤字経営で台所は火の車、会場費、プログラム印刷発送費をどうするかで頭の痛い2〜3ヶ月が経過した。しかし嬉しいことに10周年記念大会を後援して下さる方々があらわれ、明るい見通しがつき、大会前日まで忙しい日が続いた。

1月30日 松本は零下14度と今年最低の冷え込みであったが、8時頃から続々と会員、一般の方々が遠くは西宮、新潟、東京から参集され、当初は広すぎるといった会場も150人によって埋めつくされた。

林一六、今井建樹両幹事によって開会が宣言され、清水会長が挨拶に立たれ、例の体をゆり動かしながら話すポーズで創立当時の思い出、地方にあってでも恥かしくない研究会誌の発行をするよう努めた点、皆が自由に発言できる研究会の雰囲気づくりに努力したこと等が報告された。続いて会員による発表が林・今井座長によって進められた。

森林のとりあつかい 大木正夫
長野県の社寺林 林一六他
長野県における山地帯以下の森林植生 和田 清

環境の変化とハイマツの生長 佐野泰他
高等植物の微細構造と分類、とくにハウセンカ属植物について 清水建美

昼食後前川先生が長年の研究を「古赤道とカンアオイ類」という演題で静かに論ずるように話され、聴衆は身動きせずに耳を傾けた。

講演会終了後別室にて30名の賛同者をえて記念パーティが中山冽氏の司会で進められた。挨拶に立たれた前川先生は、長野県の植物を征する者は日本の植物を征することができる、20周年記念大会は長野県植物誌出版祝賀会にしてほしい旨のお話があり、続いて長老で先輩の横内斎先生が前川先生との出会いについて話された。その後東京からかけつけた中村武久氏によって乾杯の音頭がとられた。会では自己紹介と各自の抱負が語られた。中には今までの10年間は遊んでいたものでこれからの10年は植物研究のために頑張ります、長野県は植物誌を10年前から作るいいながらかけ声だけでだめだと言う話、植物誌作成には資金が必要だからビーナツ獲得に全力をあげます等いろいろの話がでて短い1時間半はまたたくまに過ぎ、山崎林治先生の万才で会は終了した。

おわりにご後援を頂きました信濃教育会、松本市教育委員会、信州大学、信濃毎日新聞社の各位に厚く御礼を申し上げます。(幹事代表 松田行雄)

